

研究テーマ:生徒の授業への取り組みをもっと意欲的にするためにはコミュニケーション活動をどのように工夫すればよいのか。

所属 須崎市立朝ヶ丘中学校

氏名 高松享子

RG JH4

1. 研究の背景

現在中学3年生を担当しており、全体的に生徒は素直であり、当てられた課題に対してまじ

めに取り組もうとする。授業はわかりやすいことを最優先し、ポイントをできるだけ絞って同じことを繰り返しながら学習事項の定着を図ろうとしている。しかしながら説明やドリルが中心となり、生徒たちの様子は音読の声も小さく、今ひとつ活気にかけ、問いかけたことに対する反応が少ない。

2. リサーチクエスト

生徒の授業への取り組みをもっと意欲的にするために、生徒に英語をなるべく使わせる機会を多く授業に組み込むことによって授業の活性化を図っていききたい。その工夫のひとつとして生徒同士による会話練習の時間を取り入れたい。そして学習の定着のために、コミュニケーション活動を工夫しながら組み込んでいきたい。

3. 予備調査

5月末に実施したアンケート結果によると、英語の授業をあまり楽しくないと感じている生徒は約46%もあり、その主な理由はわからないからが最も多く、次に興味がないから、そしてみんなが声を出さないからというものが続く。

CRTの結果では、聞くことが全国の平均からみてすぐれており、書くことが特に苦手であった。そして小さな領域別に見ると、具体的な内容や大切な部分を聞く、具体的な話を理解すること、文字等の知識を身につけること、伝えたい内容を考え正しく書くことが弱いという結果が出た。また、質問などを聞き適切に応じること、基本的な英文を読み取ることは良くできていた。

以上のような結果からわかりやすい授業を心がけ、学習事項の定着を図るためにコミュニケーション活動を取り入れてみたい。また、音声を重視したコミュニケーション活動を中心に取り組んでみたい。

4. 仮説の設定

会話表現に役立つ英語を教え、生徒同士や教師との間で英語での会話をする時間を設定することにより、英語で会話を1分間つづけることができるようになるであろう。

学習事項の定着を図るために生徒に英語を使わせることにより、授業の活性化を図ることができるであろう。

まとまった英文を聞き取らせるためにリスニングポイントを与えることにより、ポイントを絞った聞き方ができるようになるであろう。

5. 計画の実践

仮説 のために……9月26日より、主に既習事項を使ったQ and Aを授業のはじめに教師や生徒の間で行い、10月17日にインタビューテストを実施した。

仮説 のために……学習事項の定着のために、ドリルを重視し、口に出して何度も言うこと、そして練習問題を解くこと、最後には自分で実際に考えて英文が作れるように取り組んだ。また、そのできた文をペアやグループ、クラスの前で発表した。その英語を作文するときに単語の定着が悪いことに気づき、単語のテストを11月の実力テスト後5回(40問)行った。また語順に気をつけて英文を作るように指導した。

仮説 のために……まずオーラルイントロダクションによりリスニングする内容へ興味を持たせる工夫をした。そしてリスニングポイントを示しておき、TFテストやQ & Aに取り組ませた。また、まとまった英文を聞き取らせるために5W1Hに注意を払い、メモをとる指導を行った。

6. 実践の結果

仮説 について……会話練習には熱心に取り組み、テストでも32名中30名がA、2名がB(5問中2問答えられなかった)であった。1分間の会話を続ける実践はできなかった。(3学期に実施予定)

仮説 について……学習の定着のための手立ての結果、テストの平均点に変化は見られなかったが、声も少しずつ大きくなり、こちらの問いかけにも応えようとする姿勢が見られるようになってきた。12月に生徒にアンケートを実施した結果、3年生になって最も伸びた英語の力に単語力をあげた生徒が最も多く全体の約41%であった。(32名中)

仮説 について……3回のリスニングテストを行った結果、平均点が65.1(5月)、65.9(7月)、67(12月)であった。そしてまだ十分ではないがメモを取りながら英語を聞こうとする生徒が増えた。

7. 結果の検証

12月に再度アンケートを実施したところ、英語の授業を楽しく思わない生徒は約16%に減少し、楽しいと思う生徒は約84パーセントに増えた。その主な理由は英語がわかるようになったことと答えた生徒が多かった。そして伸びた英語の力に語彙の習得と基本文の定着を多くあげていた。また英語の授業の中で最も興味を持てたのは、英語を言ったり、話したりすることと答えた生徒が最も多く53%もいた。そしてもっと英語ができるようになりたいという意欲的な生徒が増えた。しかしながら楽しいとは全く思わない生徒の数が2名から3名に増え、楽しく思わない理由は、わからないから興味がもてないというものであった。

8. 成果と今後の課題

まず実践をしてみて、教師が熱意を持って取り組めば、生徒は答えてくれるということが分かった。そして実践のためには準備が大切であることが実感できた。また英語を使う場面を多く設定することが生徒の力を伸ばすことと意欲付けにつながったと思う。

課題としては、もっと英語を使う場面を増やし、その質を高めていくこと。そのためには自分の英語の指導技術と運用能力の向上を図ることそして英語が苦手な生徒への手立ても忘れてはいけないと思う。

まだまだ力不足ではあるが、これを機に実践を重ねていきたいと思う。